

## 自己管理応援シールを用いた病院・薬局連携で見えてきた成果と課題

郡司清志<sup>1)</sup>、中村泰朗<sup>1)</sup>、橋口知香<sup>1)</sup>、末永美樹<sup>1)</sup>、  
上段友美<sup>2)</sup>、槇林智子<sup>2)</sup>、大塚佳代<sup>3)</sup>、岡本佳那子<sup>4)</sup>、渡邊哲博<sup>4)</sup>、関口直孝<sup>4)</sup>

1) とうごう薬局 天神中央店、2) 済生会福岡総合病院 薬剤部、3) 済生会福岡総合病院 看護部、4) 済生会福岡総合病院 糖尿病内分泌内科

### 【目的】

日本糖尿病協会発行の自己管理応援シールを用いて病院と薬局の連携指導を行うにあたり、治療上の課題を抽出した。

### 【方法】

熊本宣言や高齢者糖尿病の血糖コントロール目標に準じ、目標 HbA1c 値と低血糖リスク（以下、リスク）を記載したシールを糖尿病連携手帳に貼付。患者 101 名と薬剤師 34 名にアンケートを行い、目標 HbA1c 値とリスク薬の認識と指導状況を調査した。

### 【結果】

患者の約 9 割が、治療意欲と安心感の向上に寄与すると回答。リスク薬が処方されている患者の 54% が自身の薬が低リスクと回答し、自身の薬が低リスクと回答した患者の 60% にリスク薬が処方されていた。薬剤師はリスク薬の低血糖指導に重点を置く傾向が見られ、患者の認識との乖離を認めた。

### 【結語】

シールを用いた病薬連携は、治療意欲向上に役立つと考えられる。リスク薬の認識については病薬連携による正しい指導が望まれる。